公益社団法人 日本鉄道広告協会 会報
JAFRA NEWS
Japan Association for Rail Advertising

12月号
Vol.75
2022年12月1日発行

発行所：公益社団法人 日本鉄道広告協会
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号 JR恵比寿ビル10階
TEL：03-5791-1808　FAX：03-3443-1616　メールアドレス：information@j-jafra.jp
URL：https://j-jafra.jp/

巻頭レポート

アナログとデジタルが融合する『ことでん』地方鉄道にもデジタル化の流れ

株式会社コトデン広告社
代表取締役社長
天野　孝則

ガタン ゴトン　ガタン ゴトン……

電車から奏でるリズムが心地よく車内に響き、乗客はのんびりと目的地まで揺られていきます。窓の外には住宅街や田畑の他に海や山も広がり、乗車時はそこだけ空間が違っているような、ゆっくりとした時の流れを感じます。

ことでんと玉藻城

さて、ここ高松は香川県の中部に位置しており、山や海も近くにあり、景観に恵まれた人口40万人ほどの中核市に指定されている県庁所在地です。香川県といえば日本で一番小さな県として有名であり、高松市もさほど大きくはありませんが、古くから『四国の玄関口』と呼ばれ、かつては本州と四国を結ぶ国鉄の宇高連絡船が就航していました。そのため、早くから国の出先機関、全国的規模の企業支社や支店、また、四国電力やＪＲ四国など、四国４県を代表する企業の本社などが置かれ、瀬戸大橋開通により連絡船が廃止となった今でも、変わらず四国の政治経済における中心拠点を担っています。近年では、瀬戸内に浮かぶ島々を中心とした瀬戸内芸術祭や、高松国際ピアノコンクールが

瀬戸内海の景色

開催されるようになり、世界へ向けた発信にも力を入れています。そのため県内外にとどまらず、海外からの観光客も多く訪れるようになりました。残念ながらここ2年ほどはコロナ禍の影響を受けてしまいましたが、少しずつ人と活気が戻ってきています。また、高松は県外移住者も多く「住みやすい町・子育てしやすい町」としての評価も高いようです。

地域の人々に愛される『ことでん』

この高松市を基点に、住民の移動手段として親しまれている『ことでん（高松琴平電気鉄道株式会社）』と呼ばれる電車が走っており、今年で111周年を迎えます。ことでんの路線は、四国の玄関口JR高松駅のそばにある「高松築港駅」から始まり、高松市中心部の「瓦町駅」より3つにわかれていきます。その一つめはエレキテルで知られる平賀源内の生誕地や第86番札所志度寺までの志度線、二つめは四国霊場第87番札所の長尾寺までの長尾線、そして三つめは、こんぴらさんで知られる金刀比羅宮までの琴平線です。3路線の総営業キロは60kmとなります。

令和となった今、超高速運送の時代の象徴となる新幹線が各地に次々と開通・整備されていますが、ここ四国ではまだ未開通の地であり、経済の中心地である高松も、冒頭に記したようなノスタルジックな風情の電車が毎日決まった時刻表通りに出発し、全ての便が各駅停車で、地域の通勤・通学や高齢者の足となっています。

志度寺

長尾寺

金刀比羅宮

ラッピング車両の博物館!?

このように高松の交通手段となっている『ことでん』は、平成15年（2003年）3月に第1号ラッピング広告車両を琴平線「こんぴらさん号」として走らせました。以来、現在まで延べ60号を超える多くの車体ラッピング広告の車両が、四季の風景を縫って讃岐路を走り、地域の人々の目を楽しませてきました。

実に、ことでんのラッピング車両の施工率は全国の電鉄の中でも高く、多い時には全車両の約20％に達しております。もとより、ことでん車両には各路線ごとにラインカラーがあり、ラッピング広告を掲出する場合

ことでんラッピング車両1号（こんぴらさん号）

アニメCMと連動したラッピング車両

学生がデザインしたラッピング車両

子供たちが楽しむようなデザインの車両

京浜急行カラーでリバイバル版

も車両のベースカラーに合すことになっていました。しかし、近年、ラインカラーにこだわらないデザインも許可ができるようになり、クライアント様にとっては、自社ブランドイメージを崩さないデザインで掲出することが可能となりました。

ことでん路線図

掲出の一例をご紹介しますと、ことでんが受け継いだ車両の中には、昔、京浜急行線を走行していたものがあり、その車体はことでんのラインカラーに様変わりをして第二の人生を走り出していました。しかし、鉄道ファン有志の方より京急カラーのリバイバル版を望む声が持ちあがり、その企画がラッピング広告として承認されました。現在も第3弾が運行中です。この手法としては、鉄道ファン有志の方々からクラウドファンディングを使って広告料金や製作・取付費用などの資金を集め掲出に至りました。リバイバルカラーで運行したい鉄道ファンと、そのラッピング車両を目的にことでんに乗車する利用者が増え、お互いメリットの大きい広告掲出方法となりました。

京浜急行カラーでリバイバル版(正面から)

駅構内もデジタル化

駅のデジタルサイネージは、駅ポスターなどに代わり稼働率も高く、クライアント様にも好評です。現在、高松築港駅に1台と瓦町駅に2タイプで7台を常設しています。

高松築港駅には、改札口を通って真正面に設置されており、横型で90インチの大型ディスプレイですので、利用する全てのお客様に認知される

高松築港DS

瓦町駅改札口DS（改札内側から）

瓦町駅改札口DS（改札外側から）

媒体といえます。

瓦町駅の1つめのタイプは、自動改札口の両面に縦型の43インチディスプレイが5台設置されています。この5台は同期放映されますので、ボリューム感と一体感で自動改札口全体が広告媒体のように感じられます。2つめのタイプは、瓦町FLAG（駅ビル商業施設）と駅改札口との間のコンコース内にあり、60インチディスプレイの2画面マルチビジョンが上下セットで2ヶ所設置されています。1ヶ所ごとに上下のマルチビジョンですので、上に動画を流しながら下はロゴマークなどの静止画を流すことも可能です。

瓦町駅DS（柱巻・2カ所セット）

また、瓦町駅には発車メロディが流れていて、くるりの『コトコト琴電』がオリジナルご当地メロディとして、また、その他にも『オブラディ・オブラダ』や『It's a small world』などが使用されています。

発車メロディは発車ベルの金属音や電子音と違って、「耳に心地よい出発音」として利用者からは大好評です。

地方鉄道の今後

今後は地方鉄道でもデジタル化が進み、切符や定期の運賃はICカードを導入、繰り返し案内する告知放送では、AIによるデータを作成して駅に自動放送をするという仕組みになっていきます。従来、駅係員が手作業やアナウンスをしていた分野を業務の効率を上げるためにデジタルを導入していき、そのことが結果、お客様に対するサービス向上へとつながっていきます。

この「ことでん」での取り組みをもとに、四国の交通媒体も生かし、ナショナルスポンサーにも地方の広告に目を向けていただけるように切磋琢磨していかなければなりません。JRや他の私鉄と共同でオリジナリティを生かし、四国セットなどを開発販売して広告の分野も協力をしていく時期にきていると思います。

高松にお越しの際は、ぜひ、『ことでん』に乗車をしていただき、各駅停車で讃岐の風景を味わいながら、のんびりとした鉄道の旅をしてみてはいかがでしょうか？

栗林公園

大窪寺

広場

再び「Re…（リ…）」

理事　道本　浩司（京阪電気鉄道㈱）

新入社員の研修が終わってから約半年ほど広告業務に携わりましたが、現在の部署に異動しておよそ四半世紀ぶりに再び広告業務に携わることになりました。現在の部署に配属される前5年間は片道2時間近い通勤時間のかかる職場で広告とは全く縁のない業務を遂行していました。通勤時間を無駄に過ごすのはさすがにもったいないと思い、経営に関する知識を横断的に身につけることができる中小企業診断士の資格取得を目指して勉強しました。合格するまで2年ほどかかりましたが、マーケティングのプロモーション戦略も試験範囲の一つでしたので、今の業務には大いに役立っています。図らずもいま流行りの「リスキリング」を実践した形になりましたが、何が功を奏するかはわかりません。

SANZEN－HIROBA（旧3000系車両を展示）

さて、京阪電車は大阪の都市部と京都の観光地を結ぶ鉄道輸送の一翼を担っていますが、大阪と京都の府境に近い樟葉駅近くにKUZUHA－MALLがあります。KUZUHA－MALLの第2期グランドオープン時に、初代くずはモール街SL広場のDNAを継承・進化させたまちの広場としての機能を持たせ、当時の最先端の技術力や企画力を活かしたシンボルとして旧3000系車両の元テレビカー1両を展示する「SANZEN－HIROBA」を開設しました。このSANZEN－HIROBAに、5000系車両を2023年春に復刻展示いたします。

5000系車両が開発された経緯ですが、1960年代の京阪線は高度成長の波に乗り、また1963年4月に淀屋橋地下延長線が開業したことで、輸送人員は増加の一途をたどっていました。車内の混雑も限界に近づきつつありましたが、ラッシュ時の増発には停車時分の短縮が必要でした。

そこで、ラッシュ時には5扉で、ラッシュ時以外には天井部に収納した座席を下ろして3扉で運用するというアイデアを実現したのが5000系車両です。

ラッシュ時の混雑対策に貢献し、長年にわたり京阪線で活躍した5000系車両でしたが、京橋駅へのホームドアの設置が決まったことから、扉位置が他の車両と異なる5000系車両は、2021年9月に引退しました。

長年お客さまに親しまれ、また時代をリードした画期的な技術を有する車両をどのような形で後世に残しておくべきか、検討を重ねた結果、多くの方に引き続き親しんでいただけるよう、KUZUHA－MALL内のSANZEN－HIROBAへ、デビュー当時の形で復刻展示することになりました。2023年春に「リアル」な形で「リバイバル」される5000系が展示される新しいSANZEN－HIROBAへぜひお越しください。

復刻展示予定の5000系車両

次回の広場もお楽しみに。

首都圏支部

交通広告実務研修を開催しました

10月25日（火）、首都圏支部（赤石良治支部長）は、ジェイアール東日本企画10Ｆ大会議室において、交通広告に携わってまだ日の浅い若手社員を対象とする「交通広告実務研修」を開催しました。この研修は、交通広告に関する実務の基礎、各種知識について学べるものです。

21社37名の皆さまが参加され、熱心に講義に耳を傾けていました。

開催日：10月25日（火）10時00分～15時30分

古川義夫氏

カリキュラムと講師（敬称略）

・ビジネス概論：交通広告の概論と実務についての講義
講師：古川義夫　株式会社ジェイアール東日本企画

・展開事例研修：展開事例から学ぶ交通広告
講師：吉田勝広　一般社団法人 デジタルサイネージコンソーシアム

・掲出基準研修 交通広告の倫理綱領や掲出基準に関する講義
講師：寺田剛　株式会社ジェイアール東日本企画

・安全研修：掲出撤去作業時の安全対策に関する講義
講師：佐藤幸正　ＪＲ東日本メディア株式会社

吉田勝広氏

寺田剛氏

佐藤幸正氏

中部支部

視察研修レポート

中部支部（厚地純夫支部長）では、10月21日（金）に東京新宿駅周辺において、媒体視察研修を開催しました。

日時：10月21日（金）13時30分～16時30分
参加者：19名（会員16名、事務局3名）
・講演：13時30分～14時30分
会場：ＴＫＰ新宿西口カンファレンスセンター8Ｆ
講師：株式会社ユニカ　不動産事業

講演の様子

本部 デジタルソリューション部次長 梶田倫之氏、藤沼良丞氏
・視察：14時50分～15時20分
会場：新宿「ユニカビジョン」及び「クロス新宿ビジョン」
・視察：15時30分～16時30分
会場：新宿駅の交通媒体

講演及び新宿「ユニカビジョン」「クロス新宿ビジョン」視察

株式会社ユニカ 不動産事業本部 デジタルソリューション部次長の梶田倫之氏と藤沼良丞氏から、クロス新宿ビジョンの設置に至るまでの経緯、開発にあたってのコンセプト、運営に対する考え方、周辺施設との協業、SNSを意識した情報発信、3D映像に関して苦労することなどをお話いただきました。

㈱ユニカ不動産事業本部の梶田氏と藤沼氏

引き続き、おふたりにご同行いただき、新宿駅東口にあるユニカビジョンとクロス新宿ビジョンを視察しました。

クロス新宿ビジョン

ユニカビジョン

新宿駅構内の交通媒体視察

㈱ジェイアール東日本企画 交通媒体本部 交通媒体局 メディア営業部部長の宅野陽子氏に同行いただき、新宿駅構内の交通媒体を視察。JR、東京メトロなどの媒体をご紹介いただきました。

当日は、天気がよいこともあり、大変有意義な視察会となりました。ご協力をいただいた皆さんには紙面を借りて改めてお礼を申し上げます。

JR 新宿駅

東京メトロ

JR 新宿駅

近畿・中国・北陸支部

交通広告実務研修会を開催しました

近畿・中国・北陸支部（野中雅志支部長）では、9月28日（水）Zoomウェビナーを活用したリモート方式で交通広告実務研修会を開催し、29社89名の参加がありました。

カリキュラム

〈第一部〉13時45分～14時45分

テーマ：「交通広告ビジネス概論～展開事例を交え～」

講師：一般社団法人 デジタルサイネージコンソーシアム 顧問 吉田勝広 氏

〈第二部〉14時55分～15時55分

テーマ：「交通広告のマーケティング効果を検証する」～広告効果からブランド効果、そしてマーケティング効果へ～

講師：株式会社ジェイアール東日本企画 企画制作本部副本部長 緒方敦 氏

なお、第二部・緒方氏のセミナーの模様はJAFRAホームページ会員専用ページからもご覧いただけますので、ぜひアクセスください。

吉田氏

緒方氏

緒方氏のレジュメ

野中雅志支部長挨拶

本日はお忙しい中、支部の交通広告実務研修にご参加いただきありがとうございます。毎年開催している本研修ですが、会員各社の将来を担う実務担当者の皆さまに交通広告を販売していただく上で役に立つ情報や最新トレンド情報を提供することを目的に開催しております。コロナ禍が今も続いておりますのでご参加の皆様の安全を考慮し、本年度につきましてもオンライン開催といたしました。本日の研修会、第一部は一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム顧問の吉田勝広様の「交通広告ビジネス概論～展開事例を交え～」をテーマにOOHの特性、強みやマーケット動向について、コロナ禍においても話題発信している近年の展開事例の紹介を含め、交通広告の新たな価値について分かりやすく講演いただきます。第二部は株式会社ジェイアール東日本企画 企画制作本部副本部長 緒方敦様より「交通広告のマーケティング効果を検証する」広告効果からブランド効果、そしてマーケティング効果へ、をテーマにこれまで取り組まれておりますオケージョン認知とブランドセイリエンスの研究結果から見た交通広告の優位性についてデータを交えながら講演いただきます。本日ご参加の皆様にとって今後の営業活動などに役立つよい機会となるのではないかと期待しております。

野中支部長

編集後記

442年ぶりの天体ショー「皆既月食＋惑星食（天王星）」ということで街行く皆さんと共に夜空を見上げていました。442年前は1580年、ということは本能寺の変の2年前なので、織田信長公、他の皆様も「月が欠ける！」と同じ月を見ていたのかと想像すると神秘的でもあり、感動的でもあります。次回、日本から見える月食＋惑星食は2344年7月26日（322年後）の土星食とのことです。2022年の最終号になりました。今年もありがとうございました、2023年もよろしくお願いします。

●メールと写真、ご意見、ご感想はこちらへどうぞ。 information@j-jafra.jp

●会員社の代表者、他が変更になった場合は、ホームページ（http://j-jafra.jp）の「各種届出書類」に変更届がありますので、ご記入の上、事務局宛にお送り下さい。ご協力お願いします。

●次号Vol.76は2月1日発行予定です。お楽しみに。